

風魔の伝説が照らす越谷の中世

2022年12月15日(木) 14:00-16:00@パルテきたこし 3F「ほっと越谷」 文責：向山健司

- ・ 自己紹介 神奈川・小田原在住／独学で三浦浄心と風魔小太郎の研究／越谷 3 回目
- ・ アプローチ 伝説(文学)と史実(史学)の両面から／時代区分不問／古典籍電子化の恩恵

1 風魔小太郎(ふうまこたろう)の伝説

風魔小太郎 忍者に関する書籍などの解説を総じて書くと…

- ・ **相模国足柄下郡**を根拠地として**後北条氏**に代々仕えた忍者・**風魔一族**の首領。黄瀬川で武田軍と対陣したときに活躍。怪物のような容貌をしており、とても強いが邪悪で残酷。後北条氏滅亡後、江戸で盗賊となり、最後は江戸幕府により処刑された。

伝説の3つの出典

1. 寛永18・1641刊 **三浦浄心**『北条五代記』巻9の**風广**(魔・摩) 後述
2. 寛文12・1672刊 推定浅井了意著『鎌倉管領九代記』巻4下の**風間小太郎**
 - ◇ 結城合戦(永享12・1440)／寄手の上杉清方に仕官／相模国足柄下郡の忍びの上手
 - ◇ 応永2・1395年の那智熊野大社文書にみえる、常陸小田氏一族「中ノミナト」の**風間出羽守**
3. 寛永後期・1635-1640頃成立 三浦浄心『見聞集』「**風魔が一類乱波が子孫共**」
 - ◇ **向崎甚内**と江戸町奉行所による「盗人狩」。実は向崎も大盗人で慶長18・1613処刑。
 - ◇ 写本で伝わり、19世紀に入ってから流布。明治後期に翻刻刊行ブーム。

風魔小太郎の誕生

- ・ 1928・昭和3 **三田村鳶魚**が『中央公論』で「風魔の一類」を一括りにして紹介。
- ・ 1932・昭和7 **白石実三**『武蔵野から大東京へ』の「妖盗風魔小太郎」で3作品の融合
- ・ 戦後初期 三田村と親しい作家の創作発表／1963『隠密剣士』大ヒット／漫画・ゲーム

2 三浦浄心『北条五代記』の風魔(かざま)



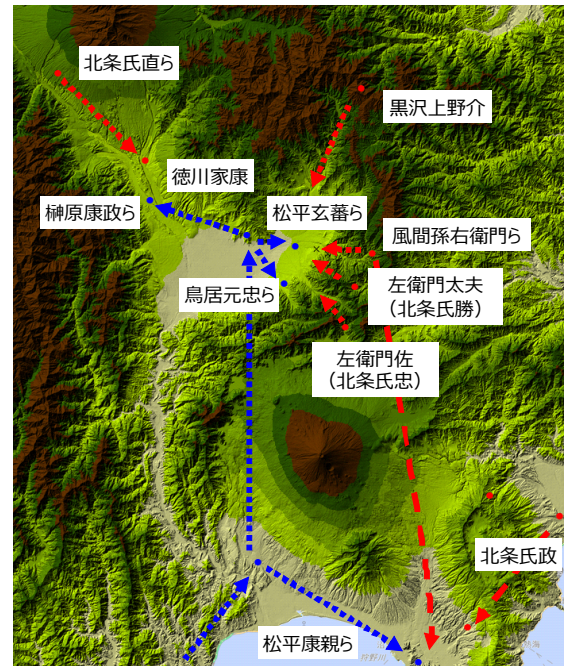
『北条五代記』万治2年(1659)版挿絵の「風魔」。「眼はさかさまにさけ。黒髭にて。口脇両へ広くさけ。きば四つ外へ出たり。…」異様な風貌の叙述には、偽装の意図が指摘されている。(カリフォルニア大学バークレー学校 東亜図書館マイクロ収集 3363.9/1333/1659 コマ325)

- ・ 三浦浄心(1565-1644)とその作品
 - 仮名草子：「若い衆」への教訓・隠された幕政批判
 - 実話と他作品の引用・再話、創作の混淆参考) 大澤学「三浦浄心の著作における慶長十九年」(『近世文芸』No.32, 1987/6)
- ・ 風魔：謀計・調略に長けた**乱波**の大將。根拠地不明。
 - 謎掛け「盗人にして又盗人にもあらざる」
 - 「大勇」と「小勇」
- ・ 天正9・1581秋、**武田氏**・後北条氏が静岡県**三島**・沼津間の**黄瀬川**で対陣したとき、**四頭**(四盗)と200人の徒党(足軽)を率いて武田の陣に**夜討ち**。
 - 天正9年秋の対陣の史実は疑問視されてきたが…

3 若神子（わかみこ）対陣と「武州の風間」

天正 10 年（1582）秋の**若神子対陣**のとき、後北条氏・**徳川氏**が黄瀬川で対陣したことは確からしく、史料には「**風間孫右衛門**」「**武州の風間**」「**風間出羽守**」の名がみえる。

- ・ 天正 10 年（1582）7 月下旬、甲斐国の**天目山**に**風間孫右衛門**が後北条氏の一陣を率いて布陣（『治世元記』巻 5(9) 国立公文書館蔵本 コマ 32）。
- ・ 同 8 月 9 日、等呂木（甲州市等々力）の徳川の陣に「北条の軍士」が「**夜懸り**」をし、武田家浪人・御手洗直重は「**武州の風間**」の将ないし「三沢勘四郎」を討取り、徳川氏に取立てられた。（『治世元記』同上、『寛永諸家系図伝』御手洗五郎兵衛尉（直重）伝、『改選諸家系譜後編』巻 230 御手洗直重伝）
- ・ 同 9 月 13 日、**北条氏政**は、**風間出羽守**に出撃を依頼した（北条氏政書状 佐藤行信氏所蔵文書、『小田原市史 史料編 中世 3 小田原北条氏 2』1993、p.416、No.1464）。
- ・ 同 25 日、三島で後北条方のかまり（伏兵）に徳川方の**三枚橋城**（沼津）の城将が討ち取られた（『石川正西聞見集』『寛永諸家系図伝』など）。
- ・ 天正 17・1589 年に、佐枝若狭守と共に**粕壁**（春日部市）の御領所（直轄地）の代官をしていた（『岩槻市史 古代・中世史料編 1(2)』pp.302-303, No.606）**深井藤右衛門**も、年不詳で、**三島表**で戦い、北条氏政の感状を受けている。（『鴻巣市史 資料編 2 古代・中世』1991 pp.593-594 No. 414）



『治世元記』にみえる「若神子対陣」の際の徳川軍・後北条軍の布陣（国土地理院『地理院地図』の「自分で作る色別標高図」により作成）

4 岩槻・越谷に残る「風間」の足跡

- ・ 元亀 3 年（1572）5 月、**岩付**領内とみられる「六ヶ村」に**風間**が在宿。『大沢町古馬宮』（天保 11・1840 頃成立、『越谷市史 第 4 巻 史料 2』1972、pp.131-133）に、越谷の**東新方六ヶ村**のうち、**向畑**の陣屋守だったと伝わる**岩井弥右衛門尉**らが世話を頼まれた。（檜原村吉野家文書 北条家朱印状写『新編武蔵風土記稿』巻 111）
- ・ 翌年暮、「**すな原**」の百姓中の申し立てにより、後北条氏は**風間**を同地に配置しないことにした。（北条家裁許朱印状写 武州文書 12『岩槻市史 古代・中世史料編 I 古文書史料 下』1983、p.182、No.477）



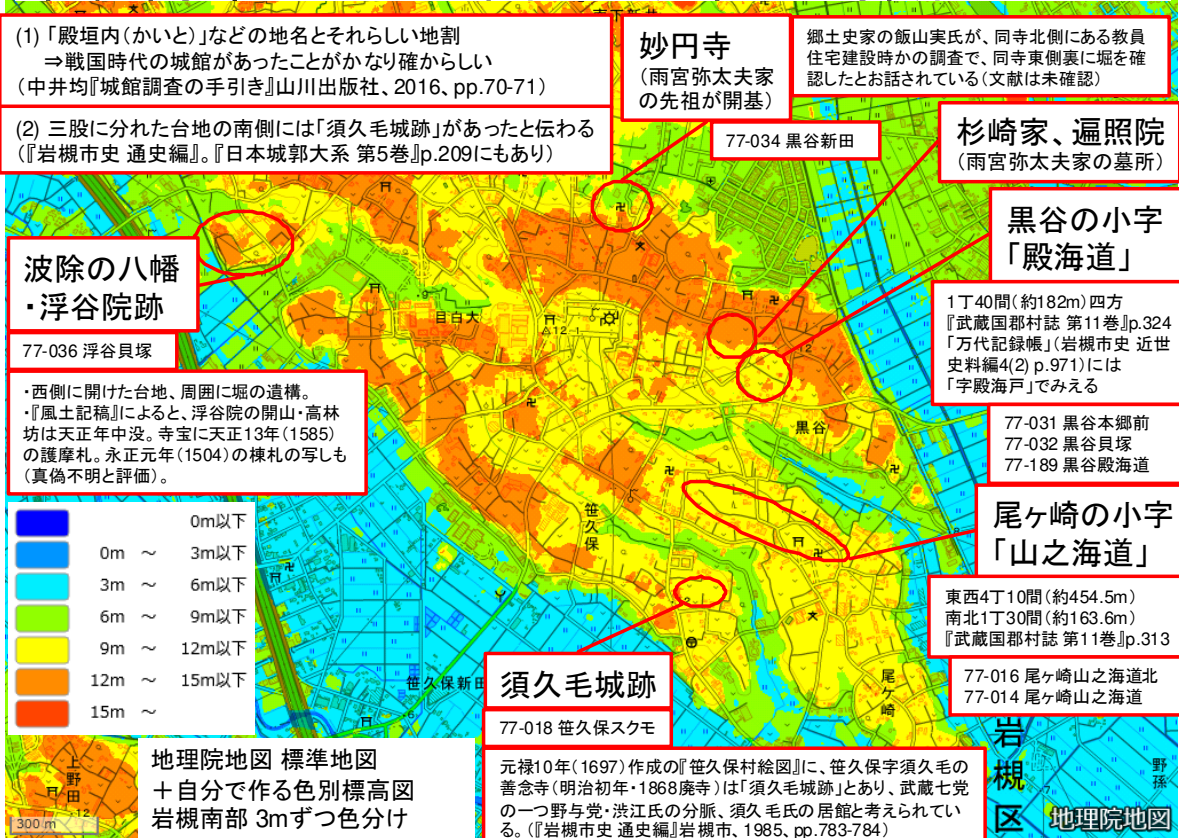
関連文書にみえる岩槻・越谷の地名（国土地理院『地理院地図』の「自分で作る色別標高図」により作成）

- 天正5年(1577)、**風間同心・渡辺新三の内田孫四郎**に対する訴えが却下された(北条家裁許朱印状写 埼玉県都幾川村 小室開弘所蔵屋代文書『岩槻市史 古代・中世史料編 I 古文書史料 下』1983、p.201、No.500)。内田孫四郎は、**太田美濃守**に仕えた父・兵部丞の頃から「すな原」の「打明」の領有を認められていた家の人物(屋代典憲家文書『岩槻市史 古代・中世史料編 I 古文書史料(下)』1983、p.185)。
- 天正9年(1581)以降、**北条氏政**が、その子で、岩付城主だった**太田十郎氏房**に対し、夜間の防備の重要性を説く中に、「風間の処へ堅く加勢専一(重要)に候」との文言がみえる(大田南畝(編)『家伝史料』6、『小田原市史 史料編 中世3 小田原北条氏2』1993、pp.1082-1083、No.2245)。
- 天正10年(1582)秋の若神子対陣のときも、「風間出羽守」は、当主の**北条氏直**ではなく、その父・北条氏政の依頼を受けていた。(上掲)

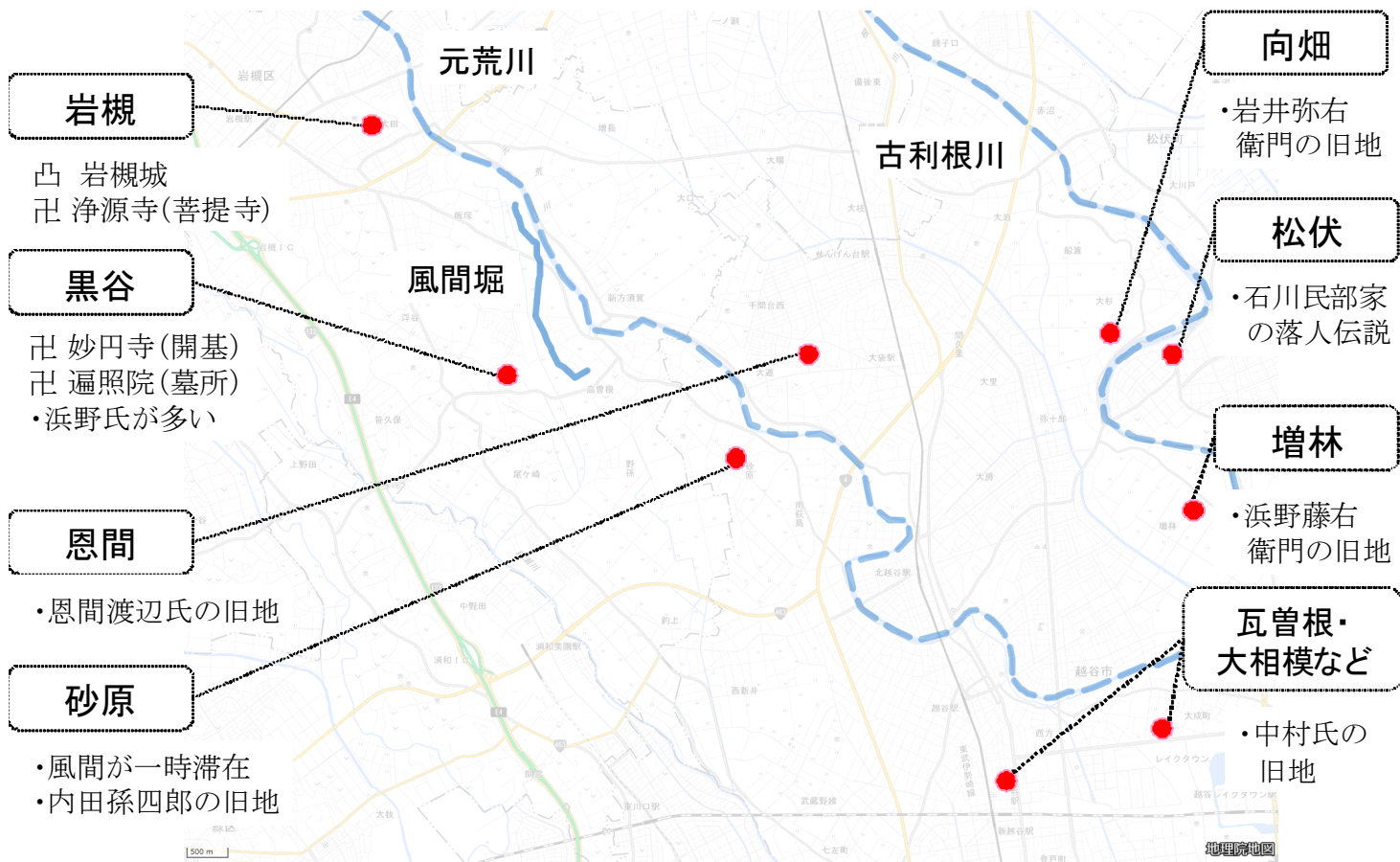
5 岩槻・黒谷における調査での再発見

- 江戸時代の岩槻・黒谷の名主・**雨宮弥太夫家**の『万代記録帳』に、先祖は本国・紀州の**風間出羽守**の子・雨宮主水正と伝わる。『岩槻市史 近世史料編 IV 地方史料下』1982、pp.975-976
- 岩槻南部には、雨宮弥太夫家とも関わりの深い江戸時代の農業用水・**風間堀**の堀筋が残る。(天明3・1783)「飯塚村明細書上帳」『岩槻市史 近世史料編 4 地方史料上』1982、p.591
- 雨宮弥太夫家は、江戸初期に**恩間渡辺氏**を含む越谷の名主家と縁組していた。「万代記録帳」
- 雨宮利之助編『雨宮家歴代法号記録』(私家本、明治20・1887)の再発見：元亀元年・1570没の**風間出羽守の実母「体室妙円大姉」**らの法号あり。
→この頃、風間出羽守本人(=領主)が黒谷・**妙円寺**を(中興)開基？
- 黒谷の台地の上、村落中央にある、**雨宮氏一党の墓所**のある**遍照院**の隣地に、「御殿の区画」を意味する字「**殿海道(殿海戸)**」があった(下図)。

岩槻南部における中世の城館跡の探索 附遺跡番号



6 関連文書にみえる氏族の比定



7 「万代記録帳」にみえる雨宮弥太夫家の江戸前期の縁者

・『岩槻市史 近世史料編 4 地方史料下』 pp.958-959

